

地域包括ケア住民啓発フォーラム

地域包括ケア啓発用物語

「なじょすっぺ！　　またもや編」

気仙沼・南三陸地域在宅医療委員会

登場人物

泉谷芳男 脳梗塞で左半身麻痺も順調にリハビリ中だった。ところが…。
泉谷敏子 芳男の妻、夫の脳梗塞再発に介護の不安でいっぱい。
川中瑛美 福島在住の泉谷家のひとり娘。両親を心配しつつも距離の壁が…。
菅田初男 芳男の将棋仲間。家が近所で親しい間柄。
菅田恭一 初男の息子で病院の理学療法士。
松川計作 居宅介護支援事業所のケアマネジャー。
小門美智 脳外科の女医。芳男の担当医。
大杉 悟 病院の地域連携室の看護師。
南野奈緒 地域包括支援センターのケアマネジャー
田中倫道 介護老人保健施設の通所リハビリ事業所職員。

キャスト

泉谷芳男 (いずみや よしお)	村岡 正朗
泉谷敏子 (いずみや としこ)	小野寺 敏広
川中瑛美 (かわなか えみ)	山野辺 瑛里
菅田恭一 (すだ きょういち)	菅原 恭
小門美智 (こかど みち)	千葉 さとみ
大杉 悟 (おおすぎ さとる)	小野寺 弘明
南野奈緒 (みなみの なお)	佐藤 奈緒子
田中倫道 (たなか ともみち)	武田 雄高
松川計作 (まつかわ けいさく)	小松 治
ナレーション	菊地 愛子
解説さん	菊田 美恵子

○オープニング

(ナレーション) 「皆様、本日はお忙しいところご来場頂きまして、誠にありがとうございます。

気仙沼圏域の今年3月末現在の高齢化率は県内で2番目に高く41.2%、高齢者がいる世帯は64.2%、高齢者のみの世帯は36.8%となっております。

つまり、高齢者が介護が必要になった場合は、その半数以上が一人暮らしか、老々介護という状況になっています。

多くの人が介護に困難や不安を抱えているのではないのでしょうか。介護保険サービスが必要なのに、介護保険のことが分かりにくく、家族で無理していませんか？

去年は、介護保険サービスに繋がって欲しい。という想いで『なじょすっぺ！はじまり編』を上演いたしました。

今年は、要介護度が重くなった時の負担や不安を解消したいと考え、『なじょすっぺ！またもや編』を企画しました。

なお、劇の内容は、分かりやすく伝えるために実際の手順等とは異なる部分がありますことを御了承ください。

また、劇のところどころで、解説さんが補足いたします。

早速、解説さんに去年のあらすじを教えて貰いましょう。」

(解説さん) 解説します！

前回のあらすじです。泉谷芳男は、妻の敏子と二人暮らし。ある朝起きたら芳男に異変が…。救急車で搬送され、脳梗塞と診断されました。相談先も分からず、「なじょすっぺ。」と困惑する泉谷家の人たちでしたが、病院の地域連携室や包括支援センターに相談できることを知り、いろいろと教えて貰ったり、支援を受けることができました。幸い、杖をついて歩けるまでリハビリで回復し、要支援2と認定されました。デイケアのサービスを利用しながら、近所に住む将棋のライバル菅田^{すだはつお}初男さんと将棋をさすなど、地域の方々との交流や支えを受けて、少し不便にはなりましたが、楽しく暮ら

していました。
そんな芳男さんに、またもや！
それでは、どうぞご覧ください。」

舞台裏。声のみ。
パワポクリック（家のイラスト）
パワポクリック（スリッパの音）
泉谷敏子（声）「ごはん出来だよ、起きらいん。」
泉谷敏子（声）「ばや、なにをしたの？」
泉谷芳男（声）「うゝゝ、うゝゝ。」
泉谷敏子（声）「なにすや、なじょすっぺ。」
パワポクリック（家のイラスト2 変化なし）
パワポクリック（スリッパの音）
泉谷敏子（声）「なじょすっぺ。なじょすっぺ。なじょすっぺ。」

（ナレーション）「夕べまで、とても元気だった芳男。突然の出来事に敏子はどうして良いか分かりません。」

パワポクリック（家のイラスト3 変化なし）
パワポクリック（救急車）

（ナレーション） 病院に救急搬送された芳男、脳梗塞の再発と診断され脳外科で治療を受け、幸いにも大事には至りませんでした。今までの様に外を歩くことは難しそうです。

○病室

パワポクリック（病室の写真）
幕がベッドが見えるくらいまで半分ほど開くとステージにベッドがあり、芳男がベッドに入っている。
芳男にスポットライト。

入院から少し経過し、気持ちも少し落ち着いた芳男と敏子、ベッドの掛け布団を敏子が直しながら

泉谷敏子 「やっぱり動がねえすか？」

泉谷芳男 「・・・。」（うなづく）

すごく落ち込んだ様子

泉谷敏子 「病気だから、すかだねえんですがす。」

美智、階段から登場

小門美智 「どうですか？調子は？」

泉谷芳男 「歩けるようになっぺが？」

小門美智 「経過を見ないと何とも言えませんが・・・。」

美智が芳男の両腕を少し持ち上げて手のひらを上向きにする。

小門美智 「腕をこのままにしてもらえますか。」

芳男は腕をそのままにしようとしているが左腕がだらりと落ちてしまう。

小門美智 「ありがとうございます。下ろしていいですよ。次に足を触りますね。触られたと思ったら教えてください。

美智が右足の爪先からボールペンで上の方になぞっていく。膝のあたりまで来ると、

泉谷芳男 「今、触られました。」

小門美智 「ありがとうございます。」

美智はそのまま左足を爪先からボールペンでなぞっていくが、腰まで来ても芳男は気づかない。

(解説さん) 解説します！

先生が行った腕を持ち上げて、そのまま維持できるかは、バレー兆候といわれる脳卒中の有無を簡易的にチェックする方法です。

また、足を触ったのは、感覚麻痺をチェックしました。どちらも、左側に麻痺が見られるようです。

小門美智 「泉谷さん、今回救急車で運ばれて、救急措置をしました。脳梗塞が再発して、脳のダメージは大きいようです。そのため、体の左側は重い麻痺の状況です。来週から地域包括ケア病棟に移ってリハビリをしてみたいと思います。よろしいですか？」

泉谷芳男は気落ちした様子で

泉谷芳男 「分かりました。」

(ナレーション) 重い麻痺が残ると言われ、がっかりした芳男と敏子。娘の瑛美も心配して駆け付けたようです。

パワポクリック (ドアのノック音)

瑛美が上手から入室。

川中瑛美 「お父さん、大丈夫？」

泉谷芳男 「左側は全然感覚もねんだ。」

川中瑛美 「えっ、そうなの。」

泉谷敏子 「腕も足もだらんとして、さっぱ力入いんねえんだっけ。触ってもわがんねえし。先生がら重い麻痺が残ったから、車いすの生活になるだろうって言われたんだでば。」

川中瑛美 「お母さん一人で大丈夫なの？ お世話できないんじゃないの？」

泉谷敏子 「ほんだがら、なじよしたらいいんだが、包括の南野さんに相談すてみっぺが。」

川中瑛美 「うん。電話してみるね。」

幕閉まる。

スポットライト消す。ナレーション中は消したまま。

張り出しステージの上手丸椅子に南野、敏子は芳男の車いすを押して移動。

下手は中央から丸椅子に敏子、車いすに芳男、丸椅子に瑛美が座る。

(ナレーション) 泉谷さんは早速地域包括ケアセンターの南野さんに電話すると、南野さんが病院に来てくれました。

○病院の面会室

パワポクリック（面会室の写真））

スポットライトで幕前のステージを照らす。

川中瑛美 「こんにちは。いつもお世話になっています。」

南野奈緒 「こんにちは。お世話様です。」

川中瑛美 「今日は病院まで来ていただいてありがとうございます。」

南野奈緒 「とんでもないです。この度は大変でしたね。」

川中瑛美 「実は父が脳梗塞が再発しまして、車椅子になってしまったんです。それで、相談に乗っていただけないかと・・・。」

泉谷敏子 「ほんだから、おら、お風呂さもいれられねんでねえべが。」

南野奈緒 「連携室の大杉さんからのご連絡いただいていました。地域包括ケア病棟に移ってリハビリを行うそうですね。今は急なことで落ち着かないと思います。今後のことはリハビリの様子もみながら、少し落ち着いてから考えることにして、まずは、区分変更申請の手続きを進めたいと思いますがよろしいですか？」

泉谷敏子 「区分変更っす？」

南野奈緒 「そうです。介護保険の要介護度は、基本的には有効期間の更新の手続きで、その時の状態に合った要介護度が認定されますが、今回のように状態が変わったので必要なサービスが受けられないときは、更新の時期を待たないで、要介護度を見直してもらう区分変更申請ができます。そうすることで、以前行っていたデイケアの回数を増やしたり、お風呂のことが心配でしたら、訪問入浴介護や訪問介護のヘルパーさんに体を拭いてもらうなどサービス量を増やすことが

できるんです。」

泉谷敏子 「そうずっと何回使えるんだべ？」

パワポクリック。限度額一覧が表示。

奈緒はスクリーンをポインタで示し、敏子と瑛美もスクリーンを見る。

南野奈緒 「例えば要介護3だと約27万円が支給限度額ですね。」

パワポクリック。要介護3の部分が強調表示に。

泉谷敏子 「なんだべ支給限度額って」

南野奈緒 「例えば支給限度額が10万円だとして、1回1万円のサービスを使う場合は、10回までは介護保険で使えます。

その際、自己負担は1割の1回千円で利用できるようになります。

支給限度額を超えてしまうと、全額自己負担になります。」

泉谷敏子 「1割だけ払えばいい限度なんだね。」

南野奈緒 「簡単に言えばそういうことですが、サービスごとに料金が違うし、自己負担は所得が高い場合は、所得に応じて2割か3割になります。」

(解説さん) 解説します！

本人負担が1割か2割か、はたまた3割かは、本人の合計所得額や世帯の状況で変わります。お手元に「あなたと歩む介護保険」という冊子を、お配りしています。詳しくは、そちらの8ページに記載してありますので、後ほどご覧ください。

なお、泉谷さんの場合は、収入は老齢基礎年金だけなので、所得は0円となり、1割負担です。それでは引き続きご覧ください。

南野奈緒 「最初の申請の時と同じように、認定調査員が調査に来ますので、連絡があると思います。それと、区分変更で要介護が付くと居宅介護支援事業所のケアマネジャーさんが担当することになりますが、それまでは担当としてできるかぎりのことをさせていただきます。」

泉谷芳男 「ありがとうございます。」

泉谷敏子 「ありがとうございます。よろしくお願いします。」

スポットライト消す。ナレーション中は消したまま
南野奈緒と大杉悟が入れ替わる。

(ナレーション) これまで要支援2で担当してくれた地域包括支援センターの
ケアマネジャーが区分変更申請をしてくれて、要介護3の認定が
ありました。それで、新しいケアマネジャーは、鹿折ケアプランセン
ターにお願いすることになりました。

そして、芳男は8週間リハビリを頑張りましたが、左半身の改善
は見られませんでした。そして2週間後には退院することになり、
退院後の生活について病院の地域連携室に相談することにしまし
た。娘の瑛美にも一緒に聞いてもらうため来てもらったようです。

○地域連携室

パワポクリック（地域連携室の写真）

スポットライトで幕前のステージを照らすと、上手に丸椅子1脚、下手
に丸椅子2脚。椅子の間は車いすが入るスペースを空ける。

上手の椅子に大杉悟が座っている。

パワポクリック（ドアのノック音）敏子が幕を広げ、姿を見せる。

泉谷敏子 「ごめんください。泉谷です。」

大杉 悟 「ああ、泉谷さん、どうぞ。」

泉谷敏子 「すみません。おら聞いても分がんねどひどいがら、大勢できました。
いいべが。」

大杉 悟 「どうぞ。」

敏子が芳男の車いすを押して、瑛美は後ろについて入室
中央側の椅子に敏子、車いすで芳男、袖側の椅子に瑛美が座る。

泉谷敏子 「よろしくお願いします。なじよしたらいいが、さっぱり分がんねく
て。」

- 大杉 悟 「できるだけお手伝いしますから、お辛いでしょうけれど。」
- 川中瑛美 「父はそろそろ退院なんですけど、リハビリしたけど、やっぱり車いすが必要みたいで、母一人では無理なんじゃないかと思うんですが、自宅には戻れないんでしょうか？」
- 大杉 悟 「心配ですよ。泉谷さんはどうしたいですか？」
- 泉谷芳男 「それは家さ帰りでのっさ。ほんでも、あずがうのも大変だと思いがら、施設さ入った方がいいんだが決めかねでんのっさ。」
- 大杉 悟 「そうですね。介護保険の在宅サービスを上手にを使って、おうちで暮らしている人もいっぱいいますよ。もちろん施設入所も選択肢の一つです。」
- 川中瑛美 「そうなんですね。でも、父は家に帰りたいようなので、在宅サービスを使って自宅で生活できている人も居るんですよね。」
- 大杉 悟 「そうですね。中には空きがなくて施設に入るのを待っている人も居るようです。まあ、色々な状況がありますが、実際に自宅で生活している人もたくさん居ます。泉谷さんは施設入所も迷っているようなので、少しお話ししますね。」

(解説さん) 解説します。介護老人保健施設、通称「老健」は、主に在宅生活に向けた機能訓練をする入所施設です。例外はあり、あくまでも目安ですが、入所期間は在宅復帰の目標を達成するための期間として原則3ヶ月とされていて、入所者の状態によって、3ヶ月ごとに見直しが行われます。延長しても6カ月で退所というのが一般的です。要介護1から5の人が入所の対象となります。

また、介護老人福祉施設は、老人福祉法では特別養護老人ホームと呼ばれる施設で、通称、特養と言われています。特養は、常時介護が必要な人の生活の場であり、原則として要介護3から5の人が対象です。

皆さんのお手元に、簡単な説明と管内の施設の一覧が書かれた資料をお配りしていますので、後ほどご覧ください。

- 大杉 悟 「では、自宅での生活についての話に戻りますね。」
- 泉谷敏子 「介護保険って言っても週1回か2回のリハビリしか使えないんでは他の5日はどうすんだべ。おらの力ではお風呂さもいれられねえべ

し、体拭くっていてもたいへんだなあ。」

大杉 悟 「包括の南野さんから要介護3になったと聞いています。要介護3だと訪問入浴介護を月に4回使っても、金額的にはデイケアに週5回行くくらい余裕がありますね。どれだけのサービスが必要かは、担当のケアマネジャーさんが検討してくれるので、詳しいことは鹿折ケアプランセンターの松川さんに相談するのが良いですね。」

泉谷芳男 「そうなんだね。それだと家に居られそうだな。部屋さ戻って、松川さんに電話してみっぺ。」

泉谷敏子 「どうもありがとうございました。なんとかできそうな気がします。私も一人暮らしは寂しいがらね。」

大杉 悟 「在宅でのサービスはケアマネさんが、自宅の状況に合わせてサービス調整会議を開いて皆さんで検討すると思いますが、退院前にいろいろ聞きたいこともあると思うので、皆さんに集まってもらおうと思います。」

泉谷芳男 「わがんねえこどばかりだがらねえ。お願いします。」

川中瑛美 「ありがとうございました。失礼します。」

3人は幕の隙間に、お辞儀をしてからはける。

悟は下手にはける。

(ナレーション) そして、退院前に会議が行われることになりました。」

○退院調整会議

パワポクリック (会議室)

幕が開き、会議室のセット。中央の机に大杉悟と小門道子、上手の机に中央側から芳男、敏子、瑛美の順に座っている。

下手の机に中央側から松川計作、菅田恭一、田中倫道の順に座っている。

大杉 悟 「本日はお集まり頂きありがとうございます。みなさんで、泉谷芳男さんの退院後のことについて相談したいと思います。早速、退院後

にどのように暮らしたいか芳男さんからお願いします。」

泉谷芳男 「本当に今日はありがとうございます。私は今回は家族に迷惑かけたくないんで施設に入ろうとも思ったんですが、やっぱり家に居たいと思います。そのためには、皆さんのご協力がないとできませんので、どうぞよろしくお願いします。」

大杉 悟 「泉谷さんもいろいろ気持ちが揺れ動いたと思いますが、正直な気持ちを話していただきありがとうございます。今は不安でいっぱいだと思いますが、体の制約がある中でも、泉谷さんらしく生活できるように、ここにお集まりの皆さんが協力してくれますので、頑張ってやってみましょう。」

松川計作 「この度、泉谷芳男さんの居宅介護支援を担当させていただきます鹿折ケアプランセンターの松川計作です。よろしくお願いします。それでは、事前に泉谷さんとご家族の意向を基に、皆さんのご意見を聞かせていただければと思います。」

一同うなずく

大杉 悟 「それでは、泉谷さん、改めてお考えを聞かせて下さい。」

泉谷芳男 「やっぱり、家族にはできるだけ負担をかけたくないですね。一番心配なのが、ベッドから車いすや、車いすからトイレへ移るのが自分だけでは難しいです。」

泉谷敏子 「おらも、なじょしたらいいんだがよく分がんねえし。転ばせたら、それこそ怪我させっからね。」

菅田恭一 「病院でリハビリをやっています理学療法士の菅田です。それであれば、これまでリハビリをやって来て、介助のコツを奥さんが掴めればできるのではないかと思っています。退院までに病院のベッドで車いすに移ったり、車いすからトイレに移ったりを奥さんと一緒にやってみたいと思います。」

松川計作 「それでは、一緒にやってみてもらって、どこに手すりがあって、どんな向きが良いとか、何か必要な用具があったら教えてもらって、自宅に合わせて福祉用具の専門相談員さんと相談して、ケアプランに反映していきたいと思います。」

泉谷敏子 「よろしくお願いします。」

- 松川計作 「それと、芳男さんが車いすに移るときはベッドは車いすの高さに合わせた方が良いと思いますが、着替えや体を拭いたりするときは、ある程度高い方が介助しやすいと思います。なので、背中部分が起きて、足が楽なように角度がついて、高さも変わるベッドをレンタルで準備しようと思います。」
- 泉谷芳男 「それだと助かります。お願いします。あど、車いすも片手で動かせつといいんだけんと。」
- 松川計作 「分かりました。機種については後で相談したいと思います。」
- 泉谷敏子 「あど、お風呂だよね。」
- 泉谷芳男 「ほんだな。」
- 松川計作 「入浴ですが、ご自宅で訪問入浴という方法もありますが、通所での入浴が良いと思います。そして、主治医の小門先生のご意見から、通所はデイケアとしています。」
- 小門美智 「泉谷さんは、病院で8週間のリハビリを行いました。回復は見られなかった。機能の回復は見込めませんが、マヒした手などは、拘縮といって、内側に固く丸まってしまうので、デイケアで作業療法を受けるのが良いと考えます。」

(解説さん) 解説します！

通所の施設には、デイサービスと呼ばれる通所介護と、デイケアと呼ばれる通所リハビリテーションがあります。どちらも食事や入浴ができますし、デイサービスでは、風船でバレーをしたり、絵手紙を書いたりして、体や手先を動かし、また、同時に脳を活性化する、いわゆるレクリエーションや運動、体操などをしますし、デイケアは、機能の回復などを目的とした専門職によるリハビリテーションを受けるところです。

- 大杉 悟 「田中さん、そちらのデイケアについて説明していただけますか。」
- 田中倫道 「介護老人保健施設のデイケアで作業療法士をしています田中です。よろしくお願いします。うちのデイケアでは車いすの方でも入浴に対応できます。仰向けに寝た形で入浴できる特殊なお風呂がありますので安心して入浴できると思います。また、マッサージや機械を使った作業療法で拘縮の予防や、日常生活動作の訓練も対応できま

す。」

泉谷芳男 「拘縮はなりたくないし、左が動かないなりの動作も練習できるのはいいね。デイケアに行って、たまには家族に息抜きさせたいっていうのもあるし、ぜひ、お願いします。」

松川計作 「それでは、自宅での生活に必要な福祉用具のレンタルと、デイケアは週3回ということでケアプランの案を作成したいと思います。」

川中瑛美 「なんだか、皆さんの話を聞いて、父が希望通り家で暮らすことがイメージできました。本当に支えてくれる人がいっぱい居るんだと改めて感じられてとても心強いです。」

松川計作 「我々もできる限り支援したいと思います。でも、実際に生活してみても、もし、気持ちが変わって、在宅介護が難しいと感じたら、いつでも相談してください。家族が少し休みたいときや用事があって出掛ける時には、ショートステイで一時的に施設に泊まることもできますので。泉谷さんを支えるように、これだけのメンバーがついています。また、この地域には、地域の皆さんを支えるために、色々な分野の、色々な資源や人が、まだまだいますので、困った時は迷わずに相談してください。」

川中瑛美 「ますます心強いです。私もできるだけ帰るようにしたいと思います。が、皆さん本当によろしくお願いします。」

泉谷芳男 「お願いします。」

川中瑛美 「ね、お母さん、感謝だね。」

泉谷敏子 「は？、なんだったべ。」

川中瑛美 「お母さん、どうしたの？最近なんか変なときあるよ。」

泉谷敏子 「なんだべ、おらぼげでねえよ。」

幕閉じる

ナレーション 「皆さん、いかがだったでしょうか。なんだか、敏子様子が気になりますね。今後、次の展開があるのでしょうか？」

「さて、去年は、介護保険制度の入り口の話でした。

今回は、介護度が重くなった時にどんなサービスが受けられるのか、多職種が連携して支える仕組みをお伝えしたいと思います。

また、今回は若干ではありますが、入所施設についても触れており

ます。医療、福祉、そして地域が、色々な形で支えていくのが地域包括ケアシステムです。

今回の劇を通じて、介護保険のサービスが皆さんに伝わって、その人らしい生活の役に立てることを願っています。

また、必要な人に必要なサービスが届くように地域で支える『地域包括ケアシステム』のことが、少しでも分かってもらえたら嬉しいです。」

幕開く

出演者は前ステージに出る。

ナレーション 「拙い演技ではございましたが、暖かくご覧頂きまして誠にありがとうございました。」

